令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大牧小学校 ）　　学校番号　０３８　　【様式】

目指す学校像	児童の主体的で自律的な学びを実現し、居心地の良い（Well―being)な学校

重点目標	1　ICTを活用した、児童が主体的に学ぶことができる授業の推進と読書活動の充実 2　どの子も安全安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる教育環境の整備 3　コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進、情報発信の充実 4　教職員の授業力の向上と学校業務改善の推進

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和７年１月３１日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力･学習状況調査では、国語、算数ともに市、全国平均と比べ概ね良好な結果である。 ○学習への興味関心は高く、意欲的に取り組む児童が多い。 ＜課題＞ ○児童の日頃の学習の様子や R5「学びの指標」アンケート結果で、課題の解決に向けて自分で思考することや自分の考えを表現することにやや消極的な面が見られる。 ○学習の理解度に個人差があるため、画一的な授業を改善し個に応じた指導の充実が必要。 ○R5 学校評価(児童)「進んで読書」で 23.5%が否定的な回答をした。	○自律的な学びの推進	○学校課題研究を通じ、全教員が互いに研究授業を公開し、児童の自律的な学びに向けた授業改善に努める。 ○学びのポイント（じ・し・や・ク）を意識して、ICT を効果的に授業で活用する。 ○教育委員会による学力向上カウンセリング訪問を要請し本校の学習状況調査結果を分析し授業改善にいかす。	○自律的な学び、個別最適な学びに向けた授業方法についての授業研究や研修会を経て、全教員が日々の授業実践のスキルを上げているか。 ○学校評価(保護者)の項目「自律的な学び」で肯定的回答が 85%以上になったか。(R5.84.7%) ○ICT 活用状況調査の項目「ほぼ毎日」が 40%になったか。(R5.35.5%)	○全教員が授業を１回以上公開し、児童が主体的に学習する形態等を選択する授業づくりを行い、管理職による指導・助言を行った。一人ひとりが自らの課題を明確にし、今後の授業実践目標を立てた。 ○学校評価(保護者)の項目「自律的な学び」で肯定的回答が 81.4%だった。 ○学びの指標アンケート（児童）「ICT の活用」3.33 で前年比 0.28ｐ向上した。	A	○次年度への課題 ・個別最適な学びと協働的な学びを両立させる授業設計 ・児童が自律的に学ぶスキル ○改善策 ・具体的な授業実践の共有 ・教育委員会指導者による、１年間を通した継続指導	○ICT を活用する力は、児童が実社会で必要となるスキルである。学ぶことはよいことだが万能なものではない。情報処理等のツールとして理解した上で、小学校段階でできることを行ってほしい。 ○学校での読書活動が、家庭生活に生きていることは素晴らしい。読書に関する学校評価(家庭・児童)の肯定的回答の数値が低いのは気になる。
		○読書活動の充実	○図書ボランティアによる読み聞かせや上級生と下級生のペアによる読み聞かせの機会をつくり、児童が多くの本に親しめるようにする。 ○児童が読書の年間目標を設定し、「達成賞・多読賞」の表彰を行い称える。	○学校評価(児童)の項目「進んで読書」で肯定的回答が 80％になったか。(R5.76.5%) ○「達成賞」「多読賞」の表彰を励みに家庭でも児童が読書に親しむ姿が見られたか。	○学校評価(児童)の項目「進んで読書」で肯定的回答が 66.7%だった。 ○図書ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせは 11 回（年 17 回）、なかよし読書は 12 月に実施した。 ○「達成賞」「多読賞」は各学年１０名以上の児童に表彰を行った。	A	○次年度への課題 ・児童が活字の本を読む時間 ・学校と家庭との連携 ○改善策 ・楽しい読書体験時間や場の提供 ・児童の興味に合った本の充実	
2	＜現状＞ ○児童の大半は、学校に楽しく通っており、優しく素直な子が多い。 ○いじめなどのトラブルは早期に解決し、その後の見守りや見届けを確実に行っている。 ＜課題＞ ○配慮を要する児童や不登校傾向の児童に対し、個に応じたきめ細かい対応を教職員が共通理解し行えるようにする。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うとともに、児童の安全への意識や環境美化に取り組む主体的な態度を育てる。	○多様な教育的ニーズに応じた特別支援・教育相談体制の充実	○スクールダッシュボード等を活用し、児童の SOS を把握し、組織的な初期対応を迅速に行う。 ○教育相談日や個人面談週間を設定し、保護者が学校に相談しやすい雰囲気をつくるとともに、SC、SSW を活用し、関係機関等との連携を図る。	○スクールダッシュボード等を活用し、児童の状況を把握し、支援につなげることができたか。 ○ケース会議を月１回以上実施し、具体的な方策や役割分担について話し合い支援につなげることができたか。	○面談やスクールダッシュボード等で SOS を把握した際には、担任、学年、管理職が迅速に共有する体制を構築し、対応した。 ○ケース会議を毎学期複数回実施し、学校、SC、SSW、市関係機関で支援が必要な児童への方策等を話し合い、組織的に対応した。	A	○次年度への課題 ・不登校、特別支援、人間関係等の多様な課題への対応 ○改善策 ・多様な方法での児童の課題の早期把握と学校、SC、SSW、関係機関との連携の充実	○児童の SOS に対する学校の素早い対応がありがたい。SC や SSW、専門機関と連携して対応されている。 ○Sola ルームが、教室に入れない児童がほっとする場として、また、個別にチャンレンジする場として有効に活用されている。 ○環境整備に関する肯定的な評価は高いが、校舎の老朽化に伴う目配りをお願いしたい。
		○安心・安全な学校生活のための教育環境整備	○毎月 10 日の安全点検を活用し、要修繕箇所の迅速な修繕を行う。 ○教育委員会と連携し、施設の不具合を迅速に改善する。 ○環境美化活動に地域や PTA の協力を得る。	○学校評価(保護者)「環境整備」で肯定的回答が 95%を維持できたか。 ○毎月の安全点検実施から、１週間以内に修繕が実施できたか。 ○関係団体の協力による環境美化活動を実施できたか。	○学校評価(保護者)「環境整備」で肯定的回答が 94.1%だった ○安全点検後、１週間以内に管理職、安全主任、用務が連携し、修繕を実施した。 ○尾間木地区教育環境整備基金を活用し、正門横と校舎南側の樹木剪定を行った。	A	○次年度への課題 ・老朽箇所への対応 ・多様な児童支援への環境整備 ○改善策 ・劣化度状況の分類と優先順位付け ・Sola るーむ等の教育環境整備	
3	＜現状＞ ○地域のお祭りや行事に児童が参加することで地域住民と顔見知りになり、関わりを増やすことができた。進んで挨拶をする児童が増えている。 ○防犯ボランティアや保護者ボランティアが、見守りと声かけをしてくださっているお蔭で児童の登下校の安全が保たれている。 ＜課題＞ ○地域の方や保護者の来校する機会が少ないため、学校での児童の様子が伝わりにくく相互理解が行いにくい。 ○児童が地域の行事に参加するだけでなく、児童が主体的に考え自ら出来ることを増やせるとよい。（成功体験を増やし、自己肯定感を高める）	○学校からの情報提供 ○教育活動公開の機会設定	○学校だよりや学校 HP を工夫し、地域に学校の情報を知らせることができるようにする。 ○目的に応じ学校からの情報発信を紙ベースからデジタルに切り替える。 ○運動会や音楽会をはじめ、地域に公開し、参画してもらえる行事を企画していく。	○学校だよりや学校 HP を工夫し、学校の教育活動の様子を地域に知らせることができたか。 ○紙媒体での配布物を減らし、電子媒体による情報発信を増やせたか。 ○運動会や音楽会を児童、保護者、地域に満足してもらえる内容にできたか。	○大牧ブログを各学年月に２回以上更新した。現在 120 の記事を載せ、アクセス数は 21000 件を超えた。 ○デジタル連絡ツールのスクリレを導入し、学校だより、学年だよりを配信した。 ○運動会は半日開催としたが、来賓を日頃お世話になっているＳＳＮの団体に広げ、学校での児童の様子を参観していただいた。	A	○次年度への課題 ・学校情報の届きにくさや発信内容のわかりにくさ・双方向性の不足 ○改善策 ・スクリレ活用の工夫や機能改善 ・簡潔で分かりやすい表現 ・双方向のコミュニケーション	○学校運営協議会に児童が参加したことで、地域の行事等に子どもの願いや思いを何らかの形で取り入れたいと考える団体が増えた。 ○学校だより等で地域の行事を紹介することが、保護者や住民が地域を知るきっかけとなっており、地域とつながっている、連携が取れていると感じた。 ○スクリレの導入により、学校からの文書を確認しやすくなった。子どもの不注意で見落としていた情報を、忘れずに得ることができるようになった。
		○学校運営協議会と SSN の一体的推進	○児童の代表が学校運営協議会に参加し、児童の思いや願いを伝える機会を設ける。(年１回以上) ○SSN を年２回開催し、CS 熟議の内容を各団体で共有し実働につなげる。 ○たっぴ一畑の管理運営を地域、PTA 役員と協働し児童の体験学習の充実につなげる。	○学校運営協議会に児童の代表が参加し、児童の思いや願いを伝えることができたか。子どもの活躍の場を増やすことができたか。 ○SSN の各団体が担う役割を果たし、協働につなげることができたか。 ○たっぴ一畑の管理運営を地域、PTA 役員と協働し児童の体験学習の充実につなげることができたか。	○学校運営協議会に児童が参加し、運営協議会委員の意見交換会を行い、児童の願いや思いを聞く場となった。児童の意見を SSN に伝え、今後の活動に繋げるようにした。 ○キーワードとして「栽培」「景観」「遊び」を掲げ、栽培活動を行った。これらの活動を大牧小ＳＳＮに位置付け、学校とＰＴＡ・地域が一体となって支えた。	A	○次年度への課題 ・児童の願いや思いを知る場の設定と活動する環境の構築 ・たっぴ一畑に行く時間の確保 ○改善策 ・SSN との連携と保護者、児童への情報提供の充実 ・総合的な学習の時間の計画改善 ・各教科とたっぴ一畑との関連充実	
4	＜現状＞ ○教員が ICT 活用スキルの習得に努め、向上が見られる。 ○高学年の教科担任制の実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができ、授業の質が向上している。 ＜課題＞ ○授業における ICT の活用について、学年、教科等で取組の差が見られる。 ○時間外在校等時間は減少傾向にあるが、業務の負担感や多忙感が教職員に見られる。	○児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	○経験を積んだ教員が授業を公開し、若手教員(5 年次までの教員)が気軽に参観できるようにする。 ○教育委員会に指導者を要請し、「児童の主体的な学びの伴走者」を目指した教員研修を行う。	○若手教員が、経験を積んだ教員の授業を参観して得たことを自己の授業等にいかすことができたか。 ○ICT を活用した学習者主体の学びを実践することができたか。	○初任者への示範授業を８回、１０年以上の教員経験者による研究・公開授業を１３回行い、若手教員の指導力を向上させた。 ○市教育研究所に指導者派遣を依頼し、１回の講演会と３回の研究授業・研究協議会を行い、ICT を活用した授業力を向上させた。	B	○次年度への課題 ・若手教員とベテラン教員の授業スキルの学び合いや共有、伝承 ○改善策 ・メンター、メンティ制研修の実施 ・教育委員会指導者による、１年間を通した継続指導	○教員同士の授業参観や授業公開、その後の話し合い、さらには外部での研修と、先生方が多様な研修をしていることが分かった。それが授業力の向上に繋がっていると思う。 ○自己研鑽のためとは言え、時間外の研修も見られる。 ○学校地域 Co が学校だより等を直接自宅に届ける際の対面の情報交換は、地域にとって意義深いものとなっている。 ○正門周りの樹木が剪定により美しくなった。教育環境の整備は大事だ。
		○学校業務の改善と子どもと向き合う時間の確保	○教職員のタイムマネジメントの意識を高め、週に１度の定時退勤を行う。 ○会議資料や家庭への手紙のペーパレス化など、ICT による業務改善を進める。 ○行事を精選したり会議の時間を減らしたりすることで、教員の教材研究や相互研修などの時間をつくる。	○定時退勤実行への感覚や意識が広まり教職員の心身の状態を良好に保つことができたか。 ○ペーパレス化など、ICT による業務改善を進めることができたか。 ○行事や会議のもち方を工夫し、教職員が負担軽減を感じることにつながったか。	○時間外在校等時間（平均）が前年比８．６％減少し、ﾀｲﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの意識が向上した。 ○会議や打ち合わせ資料をクラウドで共有し紙配付をやめてペーパーレス化したり、共同編集したりして業務改善を進めた。 ○マイクロソフト Teams によるチャット機能を活用し、集まらなくても意見交換や資料共有ができるようにした。	B	○次年度への課題 ・教科指導以外の業務の増加 ・業務量の不均衡 ○改善策 ・効果的な校務 ICT 化の推進 ・校務分掌の改善	